

戦と平和の城

松本城の特徴は、戦時中と平時の相反するデザインの建築が混在していることである。

松本城は、いつか攻撃されることを想定して築かれた城であることが、多くの防御構造からうかがえる。城壁にある長方形の穴は、敵軍に弓や火縄銃を撃つために使用されたのだろう。また、堀を越えて石垣の上に到達した敵は、石落と呼ばれる城壁から突き出た穴から撃退することが可能であった。

月見櫓の格天井や朱塗りの縁側は、攻城戦に耐えるためではなく、役人をもてなすために作られたものである。この対比は、辰巳附櫓の張り出しによく表れている。外見は石落のようだが、開口部は床板で完全に覆われており、攻め込まれたときには役に立たない。